

新「旭市」がスタート

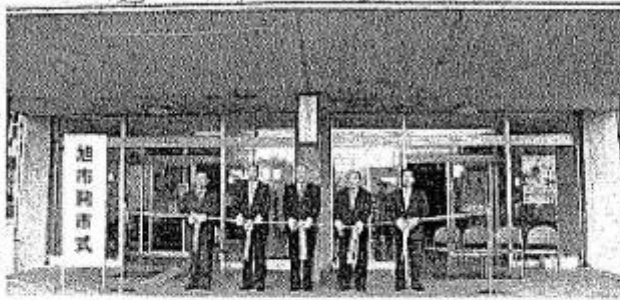
人口 7 万、世帯数 2 万

農業生産額は県内 1 位に

旭市、海上町、飯岡町、千潟町が合併して一旦、新・旭市が誕生した。平成の大合併では野田、鴨川、柏に次ぐ県内四番目の新市。三日、自治体以上では県内初めてで、東総地域としても初の合併となった。

人口は七万一千七百七十三・五〇人。六人（二〇〇〇年国勢調査）世帯数は二万一千八百八十九（同）。総面積は百二十九・九一平方メートルで、の銚子に次ぐ県内二位。農業生産額は四百四十四万四千七百七十三円。中心とする海面漁獲量は三万七千九百九十（同）の旧役場は支所となる。教育委員会の三課を含め、新市行政は本庁方式で、旧旭市役所が本庁、三町まるまでの間、穴澤清・前海上町長が市長職務執行者として務める。

旭市、海上町、飯岡町、千潟町が合併して一旦、新・旭市が誕生した。平成の大合併では野田、鴨川、柏に次ぐ県内四番目の新市。三日、自治体以上では県内初めてで、東総地域としても初の合併となった。



新・旭市誕生を祝うテープカットする穴澤清職務執行者（中央）と旧一市三町議会議長

新市長選 24 日告示、31 日投開票 行事、手続き目白押し

新・旭市が誕生した一日、市役所などでは開市式をはじめとして新市スタートに必要な行事、手続きが目白押し。穴澤清職務執行者は午前七時に登庁し、午後五時までに十四件にも及ぶ用務をこなした。

スタートは職員辞令交付式。続いて五十件以上の事務決裁。開市式でのあいさつとテープカットを行った。

開市式は主幹級以上の職員八十人が市役所に向かつてズラリと並ぶ市役所玄関前で行われた。穴澤清職務執行者は合併の必要性やこれまでの道のりを振り返り「今後は、新たな旭市の将来像と市役所を創造するために、市民の皆様と力を合わせ、新しいまちづくりを推進していかねばなりません」とあいさつ。続いて旧一市三町議会議長八千五百円、物品購入費十三億二千万円を見込んで、先月中旬に一市三町はそれぞれ開市式を開催。同日三十日で一市三町の首長など三役は失職、議事進行も不在となった。新市の行政は新市長が決まるまでの間、穴澤清・前海上町長が市長職務執行者として務める。新市長が不在のため事務上の行事は終結。同市は十月末ごろに、市民とともに新市誕生を祝う正式の式典を開催する予定。また市長選立候補予定者説明会はきょう二日市役所で行い、在任特例が適用され旧一市三町の議員七十人が出席する新市臨時議会は五日総合体育館サブアリーナで開会する。